

おかし!! マクル 探偵局

真相徹底追究

題字：下河巻史選手



指令書

ボート界はカーボンニュートラルに対応した燃料を使用するそうだ。そのテストレースについて調査するのだ。

(マクル編集部)

ボートレースのカーボンニュートラル対応

“日本初”地球環境に配慮した

「エタノール30%配合ガソリン」使用レースの実施

ボートレースは、カーボンニュートラル対応の一環として競技用モーターの燃料を地球環境に配慮した「エタノール30%配合ガソリン (E30ガソリン)」を使用して、5月1日から一部レース場にてテスト実施いたします。

燃料としてE30ガソリンを使用することは事業部門において日本で初の試みとなります。これにより従来使用していたレギュラーガソリンと比較して、約12%~15%のCO2排出量削減が見込まれます。

E30ガソリン使用レースのテスト実施場と日程

5月1日~7月13日 びわこ



びわこは全国ボートレース甲子園 (7月13日) まで

6月22日~7月20日 大村



大村はモーターボート誕生祭 (7月20日) まで

ボート界の環境チャレンジ

カーボンニュートラルとは、地球温暖化の主な原因とされる二酸化炭素などの温室効果ガスの排出量と吸収量を均衡させ、「差し引きゼロ」にした状態のことを言う。日本を含む120以上の国や地域が2050年までのカーボンニュートラル実現を目標として掲げている。

具体的な取り組みとして、太陽光や風力など再生可能エネルギーの導入や省エネ技術の活用などによる「排出の削減」。それと植林や森林保護による「排出の吸収」をセットで行うことで実現を目指している。

そこで我々がボート界。新モーターが導入されるタイミングに合わせてびわこ大村で地球環境に配慮した「エタノール30%配合ガソリン」を使用してレースが行われることになった。詳細は左の囲みを参照いただきたいが、びわこは5月、大村は6月から、ともに7月までテストとしてレースが実施される。テスト最終日は、びわこが全国ボートレース甲子園、大村がモーターボート誕生祭とともにGⅡ戦。ここでの結果によって本格導入されるか判断する。

今回はそのテスト第1弾となつたびわこでの様子を現場記者(サンケイスポーツ・倉橋記者)にレポートしてもらう。



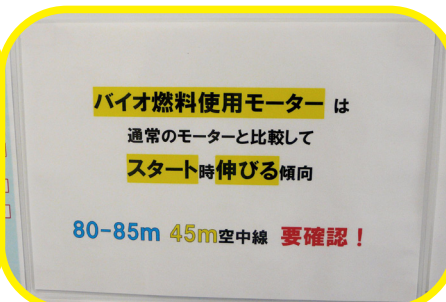
びわこの給油所。ピット(装着場)の真ん中にある。
新燃料のために設置されたわけではない。



給油所で新燃料を注入する篠崎元志。



ピット内に掲示された新燃料によるスタート事故防止のための注意喚起。
「85mから伸びる」ことを強調。



給油する武田光史。

現地記者の目

伸びる新燃料がレースを変える！ E30導入でスリットが激アツに

倉橋智宏(サンケイスポーツ)

これまでよりも伸びる新ガソリン——。穴党ファンにとっては何とも刺激的で魅力的なフレーズではないだろうか。結論から言えば、E30ガソリンはボートレースの楽しさを再認識させてくれる可能性を秘めているとみる。

日本モーターボート競走会の島崎公高業務部長兼業務部技術課課長によれば、「アルコールの一種であるエタノールは蒸発時に気化熱が発生するため、従来のガソリンに比べて燃焼時の温度が下がる。それにより熱伝導率がこれまよりも高くなることで出力アップにつながる。ただ、エタノール自体はガソリンほどの爆発力を持たないため、その点に関しては出力はマイナスながら、トータルで見れば計算上は2%の出力アップになる」とのこと。

完全に文系脳の私にとって、にわかには理解はできない文言が並んだが、いずれにせよ従来のガソリンに比べてパワーアップしているということだ。

びわこでE30ガソリンが導入されて3節目の時点でこの原稿を書いているが、レーサーが挙げるE30ガソリン導入後の課題の多くはスタートの起こしに違和感(鳴く

ような重さ)がある。それにもかかわらず思った以上にスタートが早い、ということ。

地元レーサーが集結した導入2節目のGW戦では、節間でFが6件(うち地元勢が4人)発生したように、景色がインパクトされている地元勢に特に影響が大きいように思われる。F後の地元レーサーが「コンマ10のつもりで全速。まさかFとは思わなかった」、「絶対に入っている景色だったのに……」と話していた。スリット近辺の加速感には本人の想像をはるかに超えるものだったようだ。

E30ガソリン導入後のレースやスタート展示や特訓を見る限り、確かにスリット近辺で飛び出していく雰囲気を出すが以前より目に付く。センター、アウト勢の攻めが波乱を誘発するシーンが増加した印象を受けるファンも多いはずだ。

起こしの違和感や新燃料が原因ではなく、単純に新モーター特有のもの、もしくは仕様が変更されたキャブレターが要因だという話もある。いずれにしても調整のノウハウが確立されるのは時間の問題だろう。

ただ、スリット近辺がパワーアップしたのは事実。多彩な攻防戦が繰り広げられ、本命党や穴党を問わずこれまで以上に多くのファンにボートレースの魅力が伝わることを期待している。



○コース別成績比較

※集計3節分

びわこ	2024年5月			2025年5月(新燃料)			
コース	1着率	2着率	3着率	1着率	前年比較	2着率	3着率
1	50.9	18.5	13.4	45.1	5.8%↓	18.6	10.2
2	15.2	26.3	16.6	12.9	2.3%↓	29.6	18.9
3	14.8	20.9	17.6	15.2	0.4%↑	19.9	20.3
4	10.7	15.4	23.8	13.6	2.9%↑	14.0	18.3
5	6.5	13.0	14.4	9.7	3.2%↑	11.5	20.3
6	1.8	6.1	14.6	3.7	1.9%↑	6.5	12.1

ダッシュ勢が躍動

表は昨年と今年の5月3節分のコース別成績の比較。なんと言っても1・2コース1着率が大幅ダウン。それに対してダッシュ勢が軒並みアップしている。スリット手前から伸びるというコメントが多いのを裏付けている。

選手の声

気になるインF多発の因果関係
守田俊介(滋賀)

トルクカーブが前とは変わって、回転域が低い部分はパワーが落ちたかもしれない。ただ、GW

タイムは遅化、それでも伸びる

こちらは展示タイムを比較したもの。「伸びがいい」ということだったが、平均や中央値が遅くなっていることから、全体的にスピードは鈍化していることがわかる。それでも選手が伸びるように感じるのは、横の比較によるものが大きいはずだ。さらに他場(通常の燃料)と比較しても急加速する感じがあるのだろう。

○展示タイム比較

びわこ	2024年05月	2025年05月	前年比較
平均タイム	6.73	6.80	0.07↓
最速タイム	6.50	6.50	0.00→
最遅タイム	7.15	7.10	0.05↑
中央値	6.67 ~ 6.78	6.73 ~ 6.85	0.06 ~ 0.07↓



最高パワーは以前以上

川島圭司(滋賀)

回転とパワーのグラフが以前は右肩上がりの直線だとすると、新燃料は最初の部分の角度は



丸野一樹(滋賀)

力感は燃料? 機索性?

パイプが外されていて感覚も変わりますからね。だけど、6本のFのうち4本がインだったのは因果関係が気になる部分ではあるけど...



戦でFが多発したのは、個人の感想としては新燃料だけが原因ではないと思う。温水



武田光史(福井)

起こしの気持ち悪さ

スタートの起こしに気持ち悪さがある。起こすタイミングが今までと違うし、ニードルの調整もどかが合っているのからいまだだった。プロペラがそういう形ではないし、伸びが良くなったとは感じなかった。



菅章哉(徳島)

行き足が落ちた

それよりも緩やかな感じ。だけど急に角度が高くなっていった、最終的に以前のガソリンのグラフを追いつくようなイメージでしょう。